



Creative City  
International  
Conference  
2009 in  
Yokohama

## 横浜クリエイティブシティ国際会議2009 | 分科会報告

### I-1 学びのカタチを創造する

コーディネーター——松尾 子水樹 [NPO法人 STスポット横浜 理事]

- 多様な主体・異なる立場が参加する、創造性を生みだす仕組みは、小さく始めて大きく育てることが必要。クリエイティブシティは人が生み出す。
- 地域にあるものはみんな資源。モノ・ことをつくっている、おこしている人に注目し、知られていない人を発掘する。
- 誰もが参加でき、誰も排除されない、人間としての「学びたい」という欲求が満たされ、豊かな学びのできる創造都市をめざし、クリエイティブシティを人から考える。
- 横浜市が立ちあげている芸術文化教育プラットフォームという仕組みの中にもクリエイティブシティが埋まっている。芸術文化は多様な学びを提供し、創造性の源となる。

### I-2 アートイニシアティブの未来を語る——創造界隈事業の総括と展望

コーディネーター——吉本 光宏 [創造都市横浜推進委員会 委員長 | (株)ニッセイ基礎研究所]

- 5年間の成果として、この国際会議では、アートイニシアティブ(創造界隈)のヴァリュー(価値)という本質的な議論の場が生まれた。
- 市民、民間、行政など、多様なセクターの参画を呼び込むプラットフォームとして、また、国内外の他都市とも密接につながったハブのひとつとして、横浜は SOUZOU KAIWAIの取り組みを一層推進すべきである。

### II-1 都市の文化とイメージ戦略

コーディネーター——白土 謙二 [(株)電通 執行役員]

- 都市のイメージ戦略についての多様なアプローチを世界の都市の事例に学びつつ、横浜を題材に新たなイメージ戦略のためのアイデアを探った。
- 市民の都市への誇りや愛着“シビックプライド”を育てるマネジメントサイクルの大切さと、訪れる人への情報とグッズがデザインされた「コンシェルジュショップ」の必要性が提案された。

### II-2 地域の産業とデザインの可能性

コーディネーター——橘田 洋子 [デザインディレクター | Citrus主宰]

- クリエイティブを担う人材、とりわけ「つなぐ」「導く」「まとめる」人材の育成が重要である。
- 行政は、プラットフォームを整えることに立ち返るべきであり、様々な施策の中で、コーチングの必要性が高い。
- 21世紀型の産業とデザインは、クリエイティブに関わる全ての人々が、「ワクワクと楽しい」ことが大切である。
- 環境モデル都市でもあり、多様な文化を受け入れてきた横浜は、これから「環境」や「アジア」をキーワードにした made in YOKOHAMAを戦略的に実践すべきである。

### III-1 コミュニティ再生とクリエイティブシティ

コーディネーター——岡部 友彦 [コトラボ合同会社 代表]

- コミュニティの再生を進めるためには、地域・NPO等の多様な主体の創造的活動・協働が重要である。
- 持続可能な活動を支えるためには、インカムミックスな財政基盤を作り出せるよう、行政も含めた社会全体でサポートしていくことが必要である。
- 財政的な支援に加え、未利用地等の行政保有資産の活用や、タックスクレジットのような分野を超えたアプローチも必要である。
- 専門的なスキルの提供から社会的信頼性の向上まで幅広くバックアップし、革新的な活動を生み出す基盤となるような中間支援機能が重要である。

### III-2 文化の空間戦略

コーディネーター——鈴木 伸治 [横浜市立大学 ヨコハマ起業戦略コース 准教授]

- 人口減少、産業構造の転換期に直面している現在、市場経済主義から脱却し、人間を中心とした都市の全体像を考え長期的な展望を示す都市ビジョンが必要とされている。
- 新たな都市文化の戦略は都市ビジョンの主要な課題であり、その都市文化を生成する空間、創造的な人材、創造的な活動は都市づくりの戦略と空間的に統合されるべきである。
- 多様な主体の交流の中から都市文化は生成される。交流を生み出すオープンで公共的な空間の重要性を認識すべきである。